

# 協力隊通信 vol. 5

8月

地域おこし協力隊 移住定住コンシェルジュ 家財 綾

◆役場企画課総台政策室 ☎87-0521



## 移住者インタビュー 加藤雅史さん（数馬）①

今回は2019年12月に神奈川県から移住された加藤雅史さんをご紹介します！現在は中津川にお住まいの加藤さん。移住から半年が過ぎた今、移住しての感想や現在の生活についてお話を伺いました！2回に渡りお届けします！！

将来林業に携わりたいという気持ちもあり、2018年6月、東京で行われた移住フェアにて飯豊町ブースを訪ねました。その際、役場の二瓶さんに声をかけてもらい、高橋さんや大谷部さんのお話を聞き、飯豊町に興味を湧かしました。「一度飯豊町の雪を見てみたい」と誘われ、1月に初来町し、農家民宿「庄太郎」に宿泊しました。伊藤和憲・ふみ夫妻から中津川の自然と共に生活する暮らしや趣味の登山について話を聞き、飯豊町への移住について本気で考えていきたいと思えました。手つかずの自然が魅力で、下見に来たつもりでしたが、一目惚れしました。その後、翌年5月に再来町、農業法人中津川エフエフで3日間林業研修をして、林業をやっていると確信しました。住む場所と仕事が決まり、移住しようと思えました。手つかずの



移住のきっかけを教えてください  
登山が趣味で、山間部で生活したいという気持ちが一番強かったです。長野県や山梨県など全国を登山しつつ移住先を探していました。

自然の中で暮らすのが夢だったので、わずか250人しかないこの集落で生きていくのは楽しそうだと思います。  
—移住してよかった点はズバリ！  
決して楽しいことばかりじゃないです。むしろつらいことや大変なことが多いかもしれません。一方で中津川での生活は、都会では感じられない「生きていく実感」がすごくありますね。朝起きた時に茶の間でご飯を食べ、窓から見える山に雪が積もったり、雪が解けてなくなると新芽が吹き始めたりするのを見てるといまだに夢の様です。でも、98パーセントくらいがつらいこと、大変なことだとしても残りの2パーセントの人の関わりや素晴らしい景色がすべてを忘れさせてくれます。  
—現在の仕事について教えてください  
中津川エフエフに勤務し、木を切ったり、田植えをしたりしています。以前はカメラマンの仕事をしていたので、職場環境はずいぶんと変わりました。



職場の方と共に作業する加藤さん

東北U・イターン大相談会について  
7月12日に予定されていた「東北U・イターン大相談会」は、都内の新型コロナウイルス感染拡大の状況から開催中止となりました。事前予約の方へはオンライン相談を実施しました。次回は10月11日「ふるさと回帰フェア」を予定しています。

—山の斜面での仕事。けがと隣り合わせのお仕事ですね。緊迫した現場が想像できます  
けがをするので完全な装備は必須です。現場は真剣そのものですよ。  
—移住してどんなことが変わりましたか  
電車通勤から車通勤になりました。インターネットや新聞、テレビ等の情報社会から一変、今テレビはありません。また、規則正しい生活になりました。5時半起床、10時半就寝。移住してすぐは土日も薪割り。生活のために身の回りを整えていて毎日忙しかったです。  
—生活面の不便はなかったですか  
あるとすれば買い物ですね。少し遠いですが、生協やインターネット通販も利用しているのでそう不便には感じていません。移住当初は言葉や車の運転でお酒が飲めないこと、慣れない環境で雪・仕事・日常生活を一人でやらなくてはいけないことが困りましたが、もう慣れました。  
—次回に続きます—